

四



勝亦干城外一名静岡縣沼津市長
外一市長ニ任スルノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和二十年十一月二十日
内閣總理大臣男爵幣原喜重郎



内閣

11
32

人内 第 五 八 二 三 號

起 案 昭 和 二 十 年 十 一 月 十 九 日

裁 可 昭 和 二 十 年 十 一 月 廿 日 施 行 決 定 昭 和 二 十 年 十 一 月 廿 日

昭 和 二 十 年 十 一 月 二 十 一 日

内閣書記官長



内閣總理大臣 占

内閣書記官長



勝亦干城静岡岡縣沼津市長ニ橋本
富三郎岡山縣岡山市市長ニ任スルノ
件ハ上裁ヲ經テ左ノ通指令相成
然ルヘシ

指令案

内閣

一 勝亦干城静岡岡縣沼津市長ニ任スル
ノ件上奏ヲ經タリ

二

橋本富三郎岡山縣岡山市市長ニ任ス
ルノ件上奏ヲ經タリ

内閣人内
三八二號

勝亦干城

右ハ静岡縣沼津市長芝辻一郎退職ニ付其
後任市長候補者トシテ推薦有之候處適任ト
存候ニ付市制第七十三條第三項ニ依リ同市長
ニ任シ度
右謹テ奏ス

昭和二十年十一月十九日

内務大臣 堀切善次郎



裏面白紙

沼市第九號ノ三

市長候補者推薦ニ付上申

昭和貳拾年拾月拾六日内務省發地第一七八號ヲ以テ御命令相成候本市市長候補者推薦ノ件本市會ハ新日本建設ノ事態ニ即應シ特ニ慎重詮衡ノ結果昭和貳拾年拾壹月七日開會（全月拾日繼續）ノ市會ニ於テ左記ノ者ヲ本市市長候補者トシテ推薦ノ件滿場一致ノ議決ヲ以テ決定致シ候ニ付右推薦ノ儀關係書類相添此段及上申候也

昭和貳拾年拾壹月拾日

沼津市會議長 眞野 爲雄



内務大臣 堀切 善次郎殿

記

本籍 静岡縣駿東郡原里村字永塚七一五ノ一
住所 静岡縣沼津市本字千本郷林一九〇六

勝 亦 干 城

明治貳拾五年五月貳拾六日生

添付書類

- 一 候補者推薦ニ關スル市會議決書寫
- 二 市會議錄寫
- 三 候補者調書
- 四 候補者同意書



發議第二號

本市會ニ對シ内務大臣ヨリ沼津市長候補者推薦命令アリタルヲ以テ
左記ノ者ヲ沼津市長候補者トシテ推薦スルモノトス

昭和二十年十一月十日提出
全 年 全 月 全 日 議 決

沼津市會議長 眞野 爲雄

記

本 籍 靜岡縣駿東郡原里村字永塚七一五ノ一
住 所 靜岡縣沼津市本字千本郷林一九〇六

勝 亦 干 城

明治貳拾五年五月貳拾六日生

右原本ト相違ナキコトヲ證ス

昭和二十年十一月十日

沼津市會議長 眞野 爲雄



沼津市會々議錄

一開會ノ日時及場所

昭和二十年十一月七日午後三時五分沼津市役所第一會議室ニ開會

一出席者

出席議員

第一番	松本一郎	第二番	官代喜吉
第三番	山本立太郎	第四番	河口爲三郎
第五番	堀江清吉	第六番	水口寶藏
第七番	金子平作	第九番	小澤藤作
第十番	小澤荒之助	第十二番	森田昂
第十三番	小栗爲助	第十四番	羽田俊郎
第十五番	伊藤五郎	第十七番	岩崎竹次郎
第十九番	岩崎岩吉	第二十番	山本庄八
第二十一番	佐野宗平	第二十三番	眞野爲雄
第二十四番	森田豊壽	第二十五番	大石幸作

参與員

第廿六番	西山倉吉	第廿七番	寺尾利平
第廿八番	佐藤扇次郎	第三十番	勝亦千城

書記

沼津市助役	金原陸奥平
沼津市主事	青木昇平

一缺席議員

第十一番	高木惠太郎	第二十九番	望月米吉
------	-------	-------	------

一會議事件

一市長候補者推薦ノ件

一會議

一市長芝辻一郎缺席ニ付助役金原陸奥平開會ヲ宣ス

一議長眞野爲雄 開議ヲ宣シ會議録署名人トシテ左ノ貳名ヲ指名シ次
デ内務大臣ヨリ後任市長候補者ノ推薦命令アリタル旨ヲ報告シ書記
ヲシテ命令書ノ朗讀ヲナサシム

第十五番 伊藤五郎

第十九番 岩崎吉

一議長眞野爲雄 本日ハ都合ニ依リ此ノ程度ヲ以テ散會ス
追テ繼續市會ハ來ル十日午後一時トス右御承知アリ度

一議長眞野爲雄 散會ヲ宣ス
干時午後三時七分

右會議ノ願末ヲ記録シ茲ニ署名ス

沼津市會

議長 眞野 爲雄
議員 伊藤 五郎
全 員 岩崎 吉

右原本ト相違ナキコトヲ證ス

昭和二十年十一月十日

沼津市會議長 眞野 爲雄



繼續沼津市會々議錄

一繼續再開ノ日時及場所
昭和二十年十一月十日午後三時三十五分沼津市役所第一會議室ニ
再會

出席者

出席議員

- | | | | |
|------|-------|------|-------|
| 第一番 | 松本一郎 | 第二番 | 宮代喜吉 |
| 第三番 | 山本立太郎 | 第四番 | 河口爲三郎 |
| 第五番 | 堀江清吉 | 第六番 | 水口實藏 |
| 第七番 | 金子平作 | 第九番 | 小澤藤作 |
| 第十番 | 小澤荒之助 | 第十二番 | 森田昂 |
| 第十三番 | 小栗爲助 | 第十四番 | 羽田俊郎 |
| 第十五番 | 伊藤五郎 | 第十七番 | 岩崎竹次郎 |
| 第十九番 | 岩崎岩吉 | 第二十番 | 山本庄八 |
| 第廿一番 | 佐野宗平 | 第廿三番 | 眞野爲雄 |

- | | | | |
|------|-------|------|------|
| 第廿四番 | 森田豊壽 | 第廿五番 | 大石幸作 |
| 第廿六番 | 西山倉吉 | 第廿七番 | 寺尾利平 |
| 第廿八番 | 佐藤扇次郎 | 第三十番 | 勝亦干城 |

參與員

- | | |
|----------|-------|
| 沼津市長代理助役 | 金原陸奥平 |
| 沼津市主事 | 青木昇平 |

書記

- | |
|-------|
| 鈴木清 |
| 梅原武張 |
| 松原喜代治 |

一缺席議員

- | | | | |
|------|-------|-------|------|
| 第十一番 | 高木憲太郎 | 第二十九番 | 望月米吉 |
|------|-------|-------|------|

一議長眞野爲雄 開議ヲ宣ス

一議長眞野爲雄 會議時間ノ延長ヲ宣シ次テ休憩ヲ宣ス

千時午後三時三十六分

一 議長眞野爲雄 再開ヲ宣ス

千時午後三時五十分

一 議長眞野爲雄 去ル七日ノ市會ニ於テ報告シタル内務大臣ヨリノ後任市長候補者ノ推薦命令ニ對シ發議第二號ノ通發案致シ宜敷ヤ

(第三十番勝亦干城市制第五十四條ノ理由ニ依リ退席ス)

滿場異議ナシ

一 議長眞野爲雄 異議ナキモノト認メ發議第二號ヲ付議シ書記ヲシテ議案ノ朗讀ヲナサシメ次デ本提案、通勝亦氏ヲ最適任者ト信ズルモノナリト其ノ理由ヲ説明シ第一讀會ヲ宣ス

第二、第三讀會省略原案通り可決アリ度トノ動議

アリテ賛成者多數アリ

一 議長眞野爲雄 第二、第三讀會省略、原案通り可決アリ度トノ動議アリテ賛成者多數アリ、右動議通り決シ異議ナキヤ

滿場異議ナシ

一 議長眞野爲雄 滿場異議ナキモノト認メ發議第二號ノ可決確定ヲ宣

ス

(第三十番勝亦干城出席)

一 議長眞野爲雄 第三十番勝亦干城ニ對シ發議第二號可決確定ノ旨ヲ告グ

一 第三十番勝亦干城 只今議長ヨリ市長候補者トシテ推薦決定ノ旨承リタリ、選任相受ケタル上ハ沼津市長トシテ就職其ノ微力ヲ沼津市政ノ爲盡シ度

一 議長眞野爲雄 會議ノ終了ヲ告ク

一 市長代理助役金原陸奥平 閉會ヲ宣ス

千時午後四時

右會議ノ願末ヲ記録シ茲ニ署名ス

沼津市會

議長	眞野爲雄
議員	伊藤五郎
全	岩崎岩吉

右原本ト相違ナキコトヲ證ス
昭和二十年十一月十日

沼津市會議長

眞

野

爲

雄



缺席理由

席次	氏名	缺席理由
第十一番	高木 惠太郎	過去數ヶ月病臥靜養中ナリ
第二十九番	望月 米吉	病臥中

右貳名ハ市會當日前記理由ノ爲缺席シタルモ右推薦ニハ賛成ノモノナリ

市長候補者調査

氏名	勝 亦 干 城
生年月日	明治貳拾五年五月貳拾六日
本籍	静岡縣駿東郡原里村字永塚七一五ノ一
住所	静岡縣沼津市本字千本郷林一九〇六
職位階等	正八位
職業	漁業
資産	不動産 土地 田壹反四畝八步 此貸賃價格 三五圓〇八 時價見積價格約一四〇〇圓 家屋 一坪四一 此賃賃價格 六二五圓 時價見積價格約六二七〇〇圓 動産 有價證券 約一三六〇〇圓 計 約九八七〇〇圓
市制第十條第五項第七十八條又第七十九條ノ含ムルニ該當ノ有無	有
公民權ノ有無	有
信望	信望厚シ
賞罰	無

經歷

明治四十二年 三月	縣立沼津中學校卒業
大正 五年 六月	私立明治大學商科卒業
大正 五年 十二月	歩兵第十八聯隊へ一年志願兵トシテ入營
大正 九年 三月	任陸軍三等主計
大正 九年 六月	敘正八位
昭和 十年 三月	沼津市千本濱定置漁業經營今日ニ至ル
昭和 十四年 九月	沼津市會議員ニ當選今日ニ至ル
昭和 十七年 九月	駿東地方事務所參與ニ依屬サル
昭和 十八年 八月	沼津市常盤町町内會長ニ依屬サレ今日ニ至ル
昭和 十八年 九月	沼津市會議長ニ當選
昭和 十九年 九月	沼津市會議長ヲ辭任
昭和 十九年 十一月	沼津漁業會長ニ當選今日ニ至ル
昭和 二十年 十月	静岡縣水産業會副會長ニ當選今日ニ至ル

同意書

今般沼津市會ニ於テ市長候補者トシテ推薦決定ノ旨告知相受候處御選
任ノ上ハ就職可仕茲ニ同意候也

昭和二十年十一月十日

本籍 靜岡縣駿東郡原里村字永塚七一五ノ一
住所 靜岡縣沼津市本字千本郷林一九〇六

勝 亦 干



内務大臣 堀切 善次郎 殿

大日本帝國政府

三八三三

右ハ岡山縣岡山市長竹内 實選職ニ付其ノ後任市長候補者トシテ推薦有
之候處適任ト被存候ニ付市制第七十三條第三項ニ依リ同市長ニ任シ度
右議ヲ奏ス

昭和二十年十一月十九日

備 本 官 三 郎

内務大臣 堀 切 善 次 郎



裏面白紙

會議第二十二號

推薦書

昭和二十年十一月七日

岡山市會議長 田中弘道



内務大臣 堀切善次郎 殿

市長候補者推薦ノ件

十月九日付内務省發地第一七一號ヲ以テ御命令相成
候市長候補者推薦ノ件十月五日市會會議決ヲ經
左記者ヲ市長候補者トシテ推薦仕候條可然
御取計ニ相仰度候也

追テ關係書類トシテ市會議決書茲ニ會議録寫
候補者調書及同意書添付致置候

記

岡山市會議

岡山市長候補者 橋本富三郎

六號紙

寫

乙第一號議案

橋本富三郎

岡山市會ハ右者ヲ岡山市長候補者トシテ推薦スル
モノトス

昭和二十年十一月五日提出

岡山市會議長 田中弘道

十一月五日
原案可決

裏面白紙

寫

昭和二十年十一月五日午後一時三十分開會

岡山市會會議錄

岡山市會

岡山縣岡山市役所

六號紙

(西岡45)

48

岡山市會會議事録

昭和二十年十月五日午後一時三十分開會日

出席議員 (三十七名)

- 伊原木伍朗 濱田致三郎 仁井武治 戸川左京
- 尾谷恭二 十方十春 小合金光 小郷律平
- 岡 長平 岡本信一 小野 績 早山豊三郎
- 片山直八 片山善巳雄 吉田伸治 高原菊治
- 竹園利喜太 武田武八 田中弘道 中尾鹿太郎
- 津波 徹 岡武一二 能仁事教 久保清三郎
- 柳澤寛二 安井寅吉 松本米次郎 前田宗平
- 藤井心男 小橋一男 安達秀吉 三宅幸夫
- 山司春市 宇谷熊男 中島二郎 藤勝昇一
- 菊池二郎

岡山縣岡山市役所

欠席議員 (一名)

倉田由松

議事日程

乙第一號議案 市長候補者推薦ノ件

議事

市長代理助及吉田政一君) 本日市長候補者推薦ノ件ニ関シ
 マニテ臨時市會ヲ招集致シメタ所、議員各位ニ於カレマシテ人
 御多忙中御参集下サイニテ、詢ニ御苦勞ニ存ジマス。唯今ヨリ
 開會致シマス。

議長(田中弘道君) 之ヨリ今日議ヲ開キマス本日、出席議員
 三十四名議事録署名議員二十一名早山曲五郎君、十四名
 片山善巳雄君、御西氏三才君、ヒ致シマス。先般御通知申上
 ケテ置キニシメ、今回復員御復職ニナリニシテ、中島、藤勝

六號紙

菊池ノ三氏ノ議事ハ三十七年ヲ中島君、三十八年ヲ藤勝君
三十九年ヲ菊池君ト決定致シヨリカ、菊池君ハアリニセニカ、

「異議ナシト呼フ者多シ」

議長(田中弘道君) 左様決定致シマス。ニ場合オ認リ致シマ
スカ唯今申上ルコトヲ知三君ニ對シテ知在也中ノ御意ヲ
御持持テ私カ市會ヲ代表シテ申上ルコト思ヒマスカ、此等ノ異
議アリニセニカ。

「異議ナシト呼フ者多シ」拍手

議長(田中弘道君) 一 起立 一 皆サンノ御許シテ御付コト不
私カ御意ヲ知ルコトハ會ヲ代表致シテ 一言御持持テ申上
ルコト存ルマス。大東亞戦争ニ際シテ藤勝君ハ本年一月
二十五日、菊池君ハ四月三日、更ニ中島君ハ四月十四日、大東亞
戦争ニ際シテ御付コトニ相成リ或ハ朝鮮自來地ニ或ハ南海権ヲ

岡山縣岡山市役所

自島ノ島邊限ニ或ハ内地ニ於ケルニ志シ、軍務ニ就ケルニ志シテ御精勵
相成テ各ヲ知アリマス。我ニ就任ニ在ル者、ノ御三カノ御辛勞御
御苦ノ御苦勞ニ御答ルコトヲ御感謝、感激致シテ各ヲ知アリマス。
リマスカ、向ノノ辛勞ヲ知ルニカ、御承知ノヤウニ戰事遂ニ我ニ利
アラスカ、八月十日ノ終戦ノ御活動ニ依リテ戦人終ラズテ
リマス我ニ、悲憤ハ固ヨリ御持持テ知中ニ定テスニ余リアルモ、
カクシテ知コト知ルニカ、併シ事茲ニ到リニテハ、今更何ヲ申シセウ
我ニ今後、新日本建設ニ志シテ今カキテスナクハナラズト思フコト
アリマス。マシテ市會議員ノ職ニ在ル者ノ責任ハ重且大ナルト謂
ハナケレバ、オラト思フノカクシマス。是等ニ度々下化シマス。岡山市ノ復興
興ニ於テ市民生活ノ安定ノ爲ニ我ニ凡ソモ、熱心情ト御力ヲ以テマ
シテ務メカナル市政ノ實現ニ邁進シナケレバ、斯ノ熱心ヲ以テシテ
三君ヲコト市會員ニ拜シ相成リニシテ、御力ヲ以テ、御力ヲ以テ、

為ニ此ノ上ナイ幸テアルト存スルノテアリマスド山カ即
三方ニ於カシマシテハ今後即自重即加餐ノ上益々市政
運營ノ為ニ格段ノ御盡瘁アラムコトヲ切ニ切ニ御新
リ致シマシテ甚々簡單キアツマスカ御慰勞ノ御挨拶
ト致シタリト存スルノテアリマス(拍手)

三十八番藤勝昇(君) 借越テアツマスカ藤勝が代
表致シマシテ御挨拶申上ケマス。只今我々三人ニ對シテ
シテ誠ニ御鄭重ニ御挨拶申上ケマス。又
申上ケ様モマシマス。私共ハ大命ヲ奉ジ海ヲ渡リ所
謂戰場ニ行ソタノテアリマス。何等報ユルモノナク又
大命ヲ奉ジ國家永遠ノ礎ヲ築クベク内地へ帰還シタ
ノテアリマス。仰セノ如ク是ヨリハ十分ニ自重致シマシテ
又此ノ悲慘ナル岡山ノ現状ヲ見マシテ誠ニ申上ゲル言

岡山縣岡山市役所

甚モナイノテアリマス。及ハスナカラ新タナル精神ヲ
以テ岡山市ニ盡シタリト存シテ居ル次第テアリマス
敗戦ニ付キマシテ人前ニ跪ルニ思ヒマス。又簡單テアツマ
ス。又一言御挨拶ヲ申述ベマス次第テアリマス(拍手)
議長(田中弘道君) ソレテハ日程ニ入りマス本日ノ
議案ハ議事日程ト致シマシテ此ノ黑板へ一號議
案ハ市長候補者推薦ノ件トシテ書イテ居リマス。今
朗讀シテ者略サシテ戴キマス
十番(岡本信一君) 議事進行ニ休キマシテ申上ケタ
イノテス。カ暫ク休憩ニ相成ツテハ……
議長(田中弘道君) 日程ニ入ツテカラ直ク休憩シ
致シマス。朗讀シテ者略サシテ戴キマス。休憩致シマス
(午後一時三十分休憩)

(286)

〔午後一時四十分開會〕
議長 田中弘道君 休會前ヲ継承致しマシテ會議
ヲ開キマス

十番 岡本信一君 投票ハ自席ヲ書クコトニ決定ニ

ナリマシタノテスカソレナラン將來アレハ誰ヲ書イタト

カ誰ヲ書イタト云フコトガ判ワライガコサノ因ニナルノ

テアリマス自席ヲ書クノナラ起立ニ依ツテ投票ニ代ヘ

テ戴キマイト思フ書クノナラン見エナイ所ヲ書クソレ

テナケレバ詭が右ヒトセ又皆ニ脚造リヲ願ヒマス

三十五番 正司春市君 ソレハ起立ニ依ツテヤルノモソ

シカラ此所ヲ書クノモ同ジコトヲアツマスガカラ書クソ

モ見エナイ所ヲナクテモ直イ殊ニ選挙ノ方法ハ所謂

法律ニ依リ規則ニ依ツテハワキヤルノテアルカラ左様

ナコトハ問題ニスル付要ナシ

議長 田中弘道君 コダ之ツ上程シテ居リマセ又

之ツ上程シテカラオヤリニナワテ戴キマシ

一號議案市長候補者推薦ノ件ツ上程致シマシ

第一讀會リ同キマス市長候補者ノ決定ハトウ云フ方

法ヲヤリマセウカ皆サニ脚造リ致シマス

十四番 片山善之雄君 此ノ場合簡單ニ私共ハ投票ニ依

リテヤフマカ直イノ知ヤナイカト思ヒマスカラ勸議ヲ

提出致シマス

〔賛成ナルト呼フ者多クシ〕

議長 田中弘道君 只今ノ十四番君ノ勸議ハ成程

ノ趣成ガアツテ成ニ致シマシク勸議ノ如ク決定スルニ

脚裏議ハアツクセ又カ

岡山縣岡山市役所

「異議ナシト呼フ者多シ」

議長(田中弘道)君 動議ノ如ク決定致シマスソレ

テ人書用紙ヲシテ投票用紙ヲ配付致セマス

「此ノ間書用紙投票用紙配付」

議長(田中弘道)君 選挙人会人ニ三月十日田中氏ニ即シ

十三番片山直八君ノ御両氏ニテ願ヒ致シマス。指名順為一

依リ御投票願ヒマス。ソレハ之カ投票ヲ行ヒマス。

「此ノ間指名順為一依リ投票ヲ行フ」

議長(田中弘道)君 投票ヲ終リシタ。投票済シハアリ

シカ。此ノ場合一寸皆サレニ申シテ置キマス。選挙ニ

依リテ候補者ヲ決定シマシテ之ヲ市長候補者トシテ推

薦スルニトシ御投票アリラセンシカ。

「異議ナシト呼フ者多シ」

岡山縣岡山市役所

議長(田中弘道)君 テハ左様ニ致シマス。ソレハ之カ

開票致シマス。

「此ノ間書用紙投票用紙配付」

議長(田中弘道)君 投票数三十七票。投票人三

七人。下交合致致シマス。之カラ開票ヲ致シマス。

「此ノ間書用紙投票用紙配付」

議長(田中弘道)君 ソレハ御報告申シカマス。有

效投票三十七票。内十九票橋本富三郎氏、十八

票山上山石ニ氏依リ橋本富三郎氏カ最多数ニ

市長候補者トシテ選致シマシタ。先程申シカミシヤウニ

文書ニ依リ議決カ必要アリマス。本年評議院

ヲ配付致シマス。事務アリテ待テテ願ヒマス。

「此ノ間書用紙投票用紙配付」

議長(田中弘道)君 ソレテハ之ヲ朗讀致シマス乙
第一號議案(橋本富三郎) 岡山市會ハ右者ヲ
岡山市長候補者トシテ推サスモノトス。 抑異議アリ
リセニカ、

「異議ナシ」ト呼カ者多シ。 拍手」
議長(田中弘道)君) ソレテハニニ讀會者略右案
通決定致シシテ抑異議アリセニカ

「異議ナシ」ト呼カ者多シ」
議長(田中弘道)君) 可決確定議ト致シマス本日ノ
議案其ノ之ヲ以テ全部議了ノ致シシタ 市長代理
君ノ所會ノ御挨拶カカイマス、

市長代理(助役吉田政一)君) 本日招集ノ市會ハ
之ヲ開會ニ致シマス。 皆サン知苦勞ノ様カカイマシタ
一 拍手」
午後二時ハ多市會」

岡山縣岡山市役所

右開議ノ上相違)ナキニシテ記スル寫市制第六十二條
第二項ニ依リ其ニ署名ス。

岡山市會議長 田中弘道

岡山市會議員 星子山 曲五郎

岡山市會議員 片山 善正 雄

市長候補者調書

氏名 橋本富三郎

生年月日 明治十九年六月八日

本籍 滋賀縣甲賀郡水口町大字水口三七二番地

住居 岡山市西田町四番地 (戦災後、居所 岡山市西田町藤崎多村大字涼基)

位階勲等 無

職業 市制第十條第三項及 第十一條又第六項第七 項(全額三ノ金) 有

資産 動産五万内不動産一万円 無

信望 厚シ 賞罰 無

経歴

大正二年六月 早稲田大學專門部政治経済科卒業

大正三年七月迄 同大學研究科在學

大正三年八月 倉敷紡績株式會社勤務

岡山縣岡山市役所

昭和二年八月 同社倉敷工場長

昭和五年八月 同社松山工場長

昭和八年十二月 同社丸龜工場長

昭和九年六月 休職

昭和九年六月 財團法人倉敷中央病院勤務

昭和十二年一月 右依願解職

昭和十二年一月 倉敷紡績株式會社倉敷工場長

昭和十二年十月 同社岡山工場長

昭和十四年九月 依願解職

昭和十五年十月 株式會社合同新聞社取締役社長ニ就任 現在三至ル

昭和十五年十月 市制第十條三關聯セル株式會社合同新聞社取締役社長

備考 八辭職手續中ナリ

六號野紙

同意書

岡山市長ニ御選任ノ儀同意仕リ
不肖
就職可仕候也

昭和三年十一月六日
右橋本富三郎

内務大臣堀切善次郎殿

裏面白紙

内務省發地第ニ、七號

別紙 沼津市長ニ任スルノ件

上奏書進達ノ

昭和二十年十一月十九日

内務大臣 堀切善次郎

内閣總理大臣 男爵幣原 喜重郎殿



58

裏面白紙

大日本帝國政府

內務省發地第1106號

別紙岡山 市長ニ任スルノ件

上奏書進達ス

昭和二十年十一月十九日

內務大臣

堀

切

寄

次

郵

內閣總理大臣 男 幣 幣 原 喜重郎 殿



裏面白紙